

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け 北区は取組方針を定めました

(2017年6月策定)

この取組方針は、「北区基本計画」に示す東京2020大会に向けた取組みの基本的な考え方や大会関連事業を踏まえ、大会開催を契機に北区の魅力のさらなる向上を図るための取組みの方向性を示すものです。また、北区スポーツ推進計画等の関連計画との連携・調和を図りながら、区が一丸となって東京2020大会を成功させるためのものとして位置づけます。

基本的な考え方



1 スポーツを軸とした北区の活性化

東京2020大会開催を、単なる一過性のスポーツイベントに留まらせるのではなく、オリンピック・パラリンピックが放つ特有の団結力・求心力を活用した施策展開を図り、スポーツを軸とした区の活性化につなげる。



2 「トップアスリートのまち・北区」の推進

区内にある日本トップレベル競技者のための国内最高水準のトレーニング拠点である味の素ナショナルトレーニングセンターや国立スポーツ科学センター、23区唯一の障害者スポーツの拠点である東京都障害者総合スポーツセンターと連携した北区ならではの事業展開を図り、「トップアスリートのまち・北区」を推進していく。



3 北区の魅力や新たな価値の発信

東京2020大会を見据えた北区の特色ある取組みについて、シティプロモーションに重点を置いた事業展開を進め、北区の魅力や新たな価値として発信していく。

施策体系

東京2020大会の開催決定

大会特有の団結力・求心力を活用

東京2020大会を見据えた北区の施策展開

スポーツ推進と運動能力向上

- トップアスリート直伝教室
- 2020チャレンジアカデミー
- キッズアスレティクス
- オリンピアンスケート教室
- スポーツコンダクター事業
- 障害者スポーツイベント
- オリンピック・パラリンピック教育

トップアスリートのまちにふさわしい街並みの整備

- ROUTE2020 トレセン通り
- 愛称サイン ・ PR広告塔
- 駅前総合案内サイン ・ 景観整備
- 手形モニュメント
- バリアフリー整備



地域連携・魅力づくりと発信

- スポーツ大使
- スポーツを支える人材育成
- 来たKITAオリパラプロジェクト
- リレーションシップ協議会
- 事前キャンプ誘致
- 外国人向け観光情報誌発行
- 外国人ウェルカム商店街事業

相乗的な波及効果

スポーツを軸とした区の活性化

成長気運

誰もが夢と希望を描き、目標に向かって挑戦し活躍できる気運の溢れるまち

「トップアスリートのまち・北区」の推進

東京2020大会 大会ビジョン

東京2020大会開催基本計画

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

スポーツには、世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、

すべての人が
自己ベストを目指し
全員が自己ベスト

一人ひとりが
互いを認め合い
多様性と調和

そして
未来につなげよう
未来への継承

を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。



HOST CITY

大会エンブレム 稲市松紋(くまいちまつもん)

- 市松模様を日本の伝統色である藍色で粋な日本らしさを描く。
- 3種類の四角形を組み合わせ、多様性と調和を表現。

オリンピックのシンボル

オリンピックの五輪マークは五つの輪が重なっています。これは世界五大陸(南北アメリカ・ヨーロッパ・アフリカ・アジア・オセアニア)を表しています。全世界の人たちが平和の精神のもと、スポーツで手をつなぎ合おうという意味があります。また、青・黄・黒・赤の色は地色の白を加えると、世界の国旗のほとんどを描くことができるという理由で選んだと、考案者であるクーベルタン男爵は書き残しています。

パラリンピックのシンボル

パラリンピックのシンボルマークは「スリーアギトス」と呼ばれています。「アギト」とは、ラテン語で「私は動く」という意味で、困難なことがあってもあきらめずに、限界に挑戦し続けるパラリンピアンを表現しています。青・赤・緑の三色は、世界の国旗で最も多く使用されている色ということで選ばれました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた北区の取組方針(概要版)

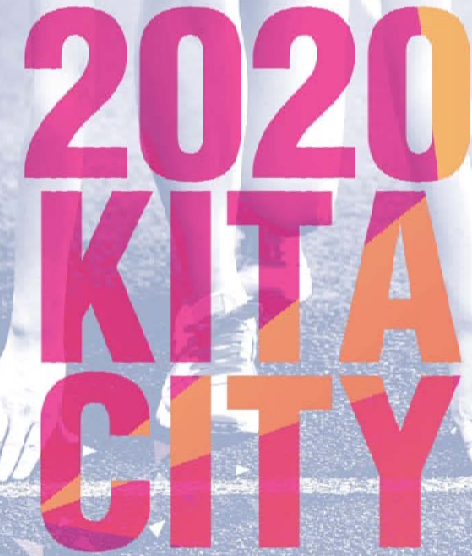
刊行物登録番号 29-2-111



北区地域振興部
東京オリンピック・パラリンピック担当課

TEL 03-5390-1136
E-mail oripara@city.kita.lg.jp

東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に 向けた北区の取組方針



SCHEDULE

第32回オリンピック競技大会(2020/東京)

期間 2020年7月24日(金)〜8月9日(日)
競技数 / 33競技 339種目

東京2020 パラリンピック競技大会

期間 2020年8月25日(火)〜9月6日(日)
競技数 / 22競技 537種目



トップアスリートのまち・北区



2020 KITA CITY

東京2020大会 開催に向けた 北区の主な取組み



トップアスリートのまち・北区

北区には、日本のスポーツ競技力向上の拠点となる「味の素ナショナルトレーニングセンター」「国立スポーツ科学センター」があります。トップアスリートが多く訪れるまち・北区の魅力を発信していきます。

※北区はJOC(公益財団法人日本オリンピック委員会)とのパートナー都市協定に基づき、オリンピック・パラリンピアンと地域におけるスポーツ交流を通じて区民のスポーツに対する意識の向上を図ります。また、オリンピックムーブメントを通じて、子どもたちの教育や競技力の向上とスポーツの推進を図ります。



国立スポーツ科学センター



トップアスリート直伝教室

障害者スポーツの推進

北区には、23区唯一の障害者専用のスポーツ施設である「東京都障害者総合スポーツセンター」があります。区では、障害者スポーツの更なる普及を目指し、交流イベントや施設等のバリアフリー化を進めています。また、障害者スポーツ指導の基礎的知識・技術を習得した人材を育成するため、障害者スポーツ指導員の養成講習会を開催しています。



障害者スポーツイベント(テニス)



バリアフリー整備(中央公園更衣室)



スポーツ大使 スポーツを軸として北区の魅力を発信します。



◎YUTAKA アフロスポーツ

上田善佳氏(北区区出)
2012年
ロンドンオリンピック銅メダル
(競泳女子400メートル)
(写真: 柳澤隆博)



◎アフロスポーツ

高橋勇市氏(北区在住)
2014年
アジアパラリンピック金メダル
(マラソン・視覚障害)
(写真: 柳澤隆博)



◎アフロ

石野枝里子氏
(北区スポーツコンダクター)
2014年度〜2016年度
2006年
トリノオリンピック4位
(スピードスケート女子チームパシュート)

フェンシング教室・ 車いすフェンシング教室

競技団体と連携して教室を開催(週一回)し、日本代表選手輩出を目指しています。



アスリート手形モニュメント

味の素ナショナルトレーニングセンターに隣接する区立稲付西山公園に、モニュメントを設置しています。北区ゆかりのアスリート(手形)と触れ合うことができます。



東京2020大会 カウントダウンイベント

東京2020大会開催を記念し、競技種目の体験やトップアスリートから直接指導を受けることができるスポーツイベントを開催しています。

写真 Let's Sports アスリートふれあいフェスタ
～Tokyo 2020, 1,000 days to GO～



ROUTE2020 トレセン通り関連事業

日本トップレベル競技者のトレーニング施設がある西が丘からJR赤羽駅及びJR十条駅に通じる道路の愛称名です。「トップアスリートのまち・北区」のシンボルとして発信していきます。



北区スポーツボランティア(登録制)

スポーツ現場におけるボランティア参加を推進します。また、養成講座を通して育成に取り組み、スポーツを通じた市民活動・社会貢献活動の活性化を図ります。



東京2020大会プロジェクトチーム (愛称名: #ときおば)

北区と包括協定を結んでいる大学の学生と一緒に、東京2020大会に関連する取組みの企画や制作を行っています。

#発信しよう と→東京 き→北区
お→オリンピック ば→パラリンピック

頭文字をひらがなでつなげることによって
日本文化も表現しました。

活動例 北区ニュース特集号の作成、各種イベントの企画・運営



平成29年10月20日特集号下画